

S4

複モード児におけるモード・スイッチング

平 英司

(関西学院大学 [日本])

要旨

本発表の調査対象は、聴者である親がろう児を日本手話で育てる五つの家庭である。そのような家庭でろう児とともに育つ聴者のきょうだいは、日本語と日本手話の二言語使用者となる。日本では長らく口話法が教育方法として推奨されてきた。現在では手指日本語と音声日本語の同時使用が用いられることが多い。音声モードを排して日本手話でろう児を育てる家庭はいまだに少数にとどまる。親はろう児の母語としての日本手話を認識してはいるが、聴児の言語獲得と言語使用について不安を感じている。

本研究では、7人の聴児(図1)の言語使用を分析する。複モード環境では、音声モード(J)、手話モード(S)、同時併用モード(W)の三つの伝達モードがありえる。複モード児は、これらの伝達モードの間を切り替えながら会話を行う。ここでモード・スイッチングに着目する。

音声言語の二言語使用の研究では、二言語使用児は言語能力、話題、対話相手の言語といった要因に基づいて言語を選択していると言われる(Fishman 1965)。音声言語の二言語使用の研究では、モデル理論が提唱されている(Comeau et al. 2003)。これは、「二言語使用児は、対話相手の言語にあわせようとする」というものである。本研究では、モデル仮説が三つの伝達モードについても成立するかを検証する。たとえば、複モード児Kによる手話モードの使用は、対話相手による手話モード使用に対応している(図2)。手話モードと音声モードについては、モデル仮説が成立するものと見られるが、同時併用モードでは成立しない。モード・スイッチングのパターンは対話相手が誰であるかによって異なることが再確認された(図3)。

次に、モード・スイッチングが果たす機能について、音声言語の二言語使用におけるコード・スイッチングの機能に照らして考察する。コード・スイッチングには、他者の言葉の引用や聞き手の注目を得ることなどの機能があると言われている。発表者は、モード・スイッチングにも同様の高度な言語使用戦略上の機能があって複数の言語の特徴をうまく活用しているものと考えている。加えて、特に同時併用モードは、対話相手の言語モードに加えてオーディエンス形成意図が影響することで複数の伝達モードが追加された結果である可能性がある。

参考文献

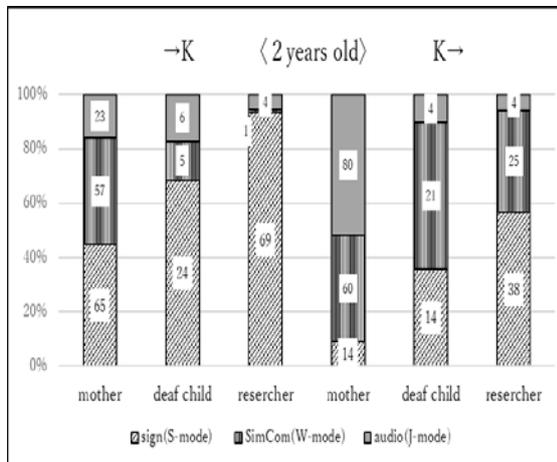
- Comeau, L., Genesee, F. and Lapaquette, L. (2003). The Modeling Hypothesis and Child Bilingual Codemixing. *The International Journal of Bilingualism*, 7(2), pp.113-126.
- Fishman, J.A. (1965) Who speaks what language to whom and when? .La

Linguistique,2,pp.67-88.

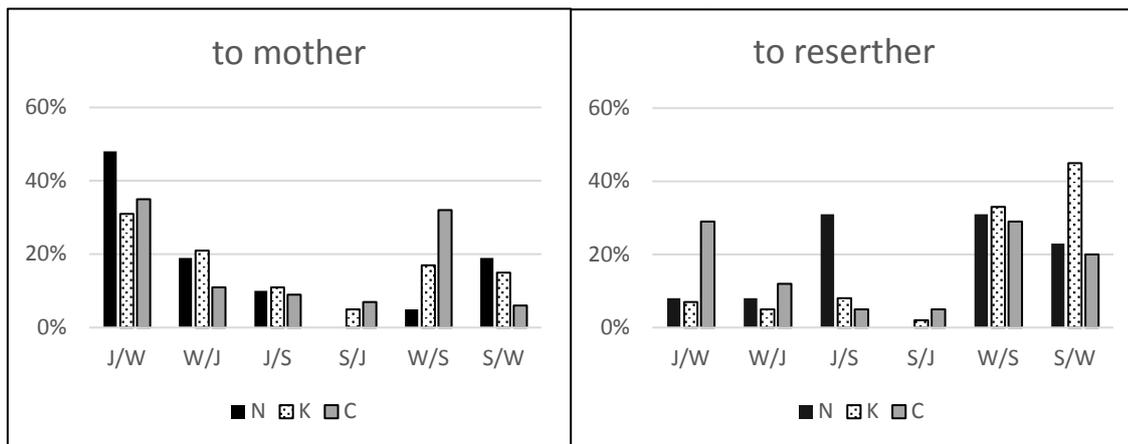
[chart1] Seven hearing children and 21date

7 bimodal children date					
Date No.	Bimodal Children (Birth Day)	Age	Deaf Child's Birth Day	Hearing people	
1	N(1999.5)	8	2002.8	Mother, Father, Researcher	
2				Mother, Researcher	
3	K(2007.10)			2	Mother, Researcher
4					Mother
5				3	Mother, Researcher
6					Mother
7				4	Mother, Researcher
8					Mother
9	C(2012.1)	1	2006.1	Mother, Researcher	
10				2	
11				3	
12				4	
13				5	
14	R(2010.11)	2	2008.10	Mother, Father	
15				Mother, Researcher	
16				Mother, Researcher	
17	T(2012.11)	3-4	2008.7	Mother, Researcher	
18	M(2005.9)	8	2002.6	Mother, m	
19				Mother, m, Researcher	
20	m(2007.8)			6	Mother, M
21				Mother, M, Researcher	

[chart2] The language usage of other party and K



[chart3] K's mode switching



[chart4] Two-layer structure of mode

